

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 全日制)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	・未来を切り拓く、しなやかな人間力を備えた鷲高人の育成
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	・さまざまなことに興味をもち、自ら学ぼうとする「主体性」 ・自分が興味をもったことを突き詰める「探究力」 ・他者とのつながりを大切に、他者から学び、互いを認め合う「寛容さ」 ・「主体性」、「探究力」、「寛容さ」を支える「健やかな心身」
ありたい教職員の姿	・生徒一人ひとりを大切に想い、生徒の気持ちに寄り添う教職員 ・「目指す学校の姿」を共通目標として、自らの考えを言語化し、伝え合える教職員 ・自らが範となり、「育みたい資質・能力」を醸成すべく、自己研鑽に取り組む教職員 ・自分の興味、関心、知識、経験を活かして、意欲的に学校運営に貢献する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 担任による個人面談から学習意欲が高まる授業を期待していることがわかる。また学校生活アンケートから一人ひとりがあるの自分の自分が認められているという実感を持ち、安心して学校生活を送ることができる学校環境を望んでいることがわかる。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートから進路希望の実現を最も期待していることがわかる。</p> <p>〈地域〉 将来、地域を支えるリーダーとなる人材の育成を期待している。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉 基礎学力の向上、自己実現に向けた進路指導</p> <p>〈中学校〉 高校生活を通して成長し、自らの目標を実現していく生徒の育成</p> <p>【地域】 地域に興味、関心をもつ生徒の育成</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈保護者〉 教育活動への理解や協力</p> <p>〈中学校〉 尾鷲高校への進学に向けた連携 ともに子どもの成長を支援するための情報共有</p> <p>〈地域〉 教育活動への支援と協力</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p>・ネットリテラシーにかかる学びに力を入れてほしい。</p> <p>・普通科(プログレッシブ・スタンダード)・情報ビジネス科・システム工学科の3つの学科があるという強みを生かした学びの充実を図ってほしい。各教科での学力をつける学びと探究的な学びを結び付けてほしい。</p> <p>・HPでの情報発信を外部人材に依頼するとよい。</p> <p>・あいさつ等、社会では必要なスキルをしっかりと身につけさせてほしい。地域の人材をうまく活用するとよい。</p> <p>・レジリエンス教育は若い教員にとっても有効ではないか。</p> <p>・総勤務時間の縮減には引き続き取り組んでほしいが、業務負担の偏りがなく、業務の平準化に努めてほしい。</p>	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善研修や探究のブラッシュアップに係る研修を実施し、指導力をさらに高める。また、外部の研修も紹介し、可能な限り研修に参加できるよう支援する必要がある。 ・キャリア教育について、子どもにつけたい力を意識して、現在本校が行っている取組を整理する必要がある。 ・生徒の意見を取り入れた行事の運営をさらに進め、主体性な行動ができるようにしていく必要がある。 ・DX ハイスクールの取組を、普通科の「総合的な探究の時間」や情報ビジネス科の「課題研究」とも連動させ、普通科・実業学科をあわせ持つ本校の強みを生かした探究的な学びを検討する必要がある。 ・互いを認め合う寛容さを育むことのためにも健やかな新進を育む取組のさらなる充実が必要である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・紀北地域唯一の高等学校として、地域の教育ニーズを踏まえた学びについて、地域との連携を丁寧に深めながら、考え取り組んでいく必要がある。 ・地域から信頼される存在であるために、生徒や保護者、地域に対して情報発信をこまめに行う必要がある。 ・教職員がいそいそと教育活動を行うためにも、ライフワークバランスがしっかりとれた学校運営が必要である。そのために業務の精選、効率化、平準化をさらに進め、総勤務時間の縮減が必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な学力の定着と、主体的に学ぶ態度の育成を図り、「主体的・対話的で深い学び」と「探究活動」を意識した授業を充実させる。 ・「総合的な探究の時間」と「課題研究」とおして、答えのない問いに対する自分なりの考えを導く探究力を養う。 ・あらゆる指導において対話を重視し、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。 ・社会人として生活していくための基本的なマナー、生活習慣、人権感覚、命を大切に作る心、他者と認め合う心を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化を進め、教職員の総勤務時間縮減に取り組むことで、教職員と生徒がかかわる時間を確保する。 ・教職員のスキルアップのための校内研修を定期的実施する。 ・教職員間の対話を大切にし、同じ目標に向けて教職員一丸となって日々の業務に取り組む。 ・教職員それぞれの強みや経験を活かし、意欲的に業務に取り組めるよう業務分担を行う。 ・本校に関わる活動の様子を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学業に取り組むことができる生徒 ・規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ・部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に取り組むことができる生徒 ・お互いを認め、尊重しあい、協働して学校生活を送ることができる生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>主体性を育む授業・探究力の育成に向けて</p>	<p>中長期的な重点目標である『主体的・対話的で深い学び』と『探究活動』を意識した授業を充実」を目標に、授業研究会を実施し、多角的な授業設計に向けた授業者の資質向上に取り組む。</p> <p>【活動指標】 授業運営に関する校内研修を年3回以上実施し、協議内容を各教員が授業に反映させ、生徒の学力向上を目指す。</p> <p>【成果指標】 ①授業研究会後、「主体的で対話的な授業に対する知見を自身の授業に反映できた」と回答した教員の割合をトータルで80%以上を達成する。</p> <p>②生徒向けの授業アンケートにおける「主体的・対話的な学習」や「探究的活動」に関する項目において、そういった活動が授業の中に取り入れられていること、それが生徒目線で学力の向上に繋がったかの相関関係を確認し、教員のアンケートと生徒アンケートの結果をクロス評価して、授業研究会の効果を検証する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>希望進路の実現に向けたキャリア教育の充実</p>	<p>(1)学年団と連携し、生徒の情報共有に努める。</p> <p>(2)特に3年生について、対話を重視し、希望職種と個人の特性のマッチングをはかる。また、進学においては個人の強みに応じた学校や入試選びのサポートをする。</p> <p>(3)生徒個々の進路実現及び自己実現に向けた意識の向上を図るため、各学年の段階に応じた進路ガイダンスや説明会等を実施する。</p> <p>【活動指標】 ・3年生進学希望者向け説明会:年間5回実施 ・3年生就職希望者向け説明会:年間4回実施 ・1・2年生:進路別ガイダンス年間1回</p> <p>【成果指標】 ・3年生進学希望者第一志望合格率 70%以上 ・3年生就職希望者学校斡旋による就職内定率 90%</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>実業系学科(情報ビジネス科・システム工学科)の特色ある学びの</p>	<p>(情報ビジネス科)</p> <p>(1)職業人としての基本技能の習得を図るとともに、学習意欲の向上に努める。</p> <p>(2)地域企業や地域行政との連携を通じ、課題解決に向けた問いをたて、挑戦する職業人としての姿勢を涵養する。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>

<p>充実</p>	<p>【活動指標】 ・各種検定への挑戦を通じた学習指導、実技指導を年間を通じて行う。 ・企業及びこども園等と連携した体験的学習の実施:年間2回以上 【成果指標】 ・生徒1人ひとりの各種検定取得状況の向上 ・就職希望者の就職率 100%</p> <p>(システム工学科) (1)専門性の定着を図るため、資格取得をとおして実践的な学習活動の充実を図る。 (2)地域産業と連携した学習を推進するため、DXハイスクール事業を活用した探究的な取組を実施する。</p> <p>【活動指標】 ・全生徒が年間を通して3種類の検定を受験する。 ・DXハイスクール事業を活用し、地域や企業等と連携した活動の実施:年間3回以上 【成果指標】 ・ガス溶接技能講習、危険物取扱者、計算技術検定、情報技術検定の合格率80%以上 ・授業アンケートにおいて「主体的に学んだ」と回答する生徒 80%以上</p>		<p>◎</p>
<p>互いを認め合う寛容さを育むことを目指した人権教育の充実</p>	<p>人権学習等を公開するとともに、学習後の意見交換を通じて人権学習等のブラッシュアップを図り、生徒が自他の人権を守るための実践行動ができる力を育む。</p> <p>【活動指標】 人権学習の公開 年間2回 【成果指標】 ・公開した人権学習の外部参加者からの肯定的意見の割合 80%以上 ・人権学習の振り返りでの生徒の肯定的な意見の割合 80%以上</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>「主体性」「探究力」「寛容さ」を支えるための「健やかな心身」を育む</p>	<p>(1)不慮の事故などに対して適切な対応ができるように、教職員向けの講習会を実施する。</p> <p>【活動指標】 ・救急法実技講習会の実施:年間1回 ・エピペン取り扱い講習の実施:年間1回 【成果指標】 講習会への参加率 100%</p> <p>(2)健康診断だけでなく、いのちの講演会の実施や生徒保健委員会の活動等をとおして、生徒が健やかな心身を育むための保健教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】 ・いのちの講演会の実施:年間1回</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	<p>(3)レジリエンス(こころの回復力)を育む教育相談体制の整備を図り、生徒が安心して相談できる環境づくりを、通信・講話・掲示物等を通して推進する。 【活動指標】 ・教育相談通信発行:月1回 ・「お守り言葉・励まし言葉」の掲示:週1回更新 ・スクールカウンセラー活用:週1回来校 【評価指標】 ・生徒アンケートにおける状況の把握</p> <p>(4)安心、安全に学校生活を送ることができるよう、大掃除や学校環境デーの取組、学校美化・衛生・安全面の整備に努める。 【活動指標】 ・大掃除の実施:年間3回</p> <p>(5)様々な背景や発達特性を持つ生徒が、安心して落ち着いた学校生活を送れるよう、教職員間および関係機関との情報共有と支援体制の充実を図る。 【活動指標】 ・「気になる生徒調査」の実施:年間2回 ・特別支援教育委員会の開催:年間2回 ・レジリエンスを育むSST補習の実施:随時 ・情報共有の実施状況の記録</p> <p>(6)挨拶や言葉遣いなどのコミュニケーション能力や社会人となるうえでのマナー向上を図るため、朝のあいさつ運動や各集会や授業等での身だしなみ指導を行う。</p> <p>(7)生徒に関する情報をこまめに共有することで、生徒の状況に応じた指導、面談、保護者との連携を進める。 【活動指標】 ・朝のあいさつ運動の継続、部会による情報共有:毎月3回以上 ・生活、いじめアンケートの実施:年間3回 【成果指標】 ・生活アンケートで「挨拶をしている」「身だしなみを整えている」と回答する生徒 80%以上 ・保護者アンケートで生徒の生活について肯定的な回答する保護者の割合 80%</p>		<p>◎</p> <p>◎</p>
改善課題			
(年度末に記載)			

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体性を育む授業に関する取組	<p>中長期的な重点目標である「業務の効率化を進め、教職員の総勤務時間縮減に取り組むことで、教職員と生徒がかかわる時間を確保する」を踏まえ、生徒と直接かかわる授業時間の確保に取り組む。</p> <p>【活動指標】 教員の1日の適正な業務量の調整と授業時間の確保の観点から、1日4コマ以下の授業編成を基本とし、一部の科目を除き、昼休みを挟まない3限連続授業を回避し、自習時間を可能な限り削減し、教員による授業実施率を高める。</p> <p>【成果指標】 授業時間の無理のない確保が、生徒と教職員が直接かかわる時間の確保につながると仮定し、3限連続授業(昼休みを挟まないもの)の発生件数および自習時間が前年度より減少していることを数的に確認する。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
人権教育の充実	<p>・教職員1人ひとりが主体的に人権教育について考える機会を充実させる。</p> <p>【活動指標】 教職員の人権研修会(校務分掌別でのグループ協議を含む)への参加率 100%</p> <p>【成果指標】 教職員アンケートで「人権教育について考える機会が充実した」と回答する教職員の割合 90%以上</p>	(年度末および適宜記載)	◎
情報発信による信頼の構築	<p>(1)ホームページ等による情報提供</p> <p>【活動指標】 ホームページ、インスタグラムでの発信 月3回以上</p> <p>(2)授業公開、学校説明会等の実施</p> <p>【活動指標】 年間3回以上</p> <p>【成果指標】 学校の様子がわかると回答する保護者の割合80%</p> <p>(3)中学校訪問や情報交換会の実施</p> <p>【活動指標】 年間3回以上</p> <p>(4)地域の中学校長会や進路担当者会議等への情報発信</p> <p>【活動指標】 年間3回以上</p>	(年度末および適宜記載)	※ ◎
地域との連携	<p>地域と積極的に連携することで、地域に根差した教育活動を行う。</p> <p>【活動指標】 地域連携の活動 年間3回以上</p>	(年度末および適宜記載)	◎

総勤務時間の縮減	(1)時間外在校等時間の上限厳守の徹底 (2)月平均時間外在校時間の削減 (3)業務の精選・効率化・平準化を進める。 (4)教職員の休暇取得を促進する。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し、60分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年間360時間を超える教職員数 0人 (4~1月の10か月間で300時間超となった人数を換算して検証する) ・時間外在校等時間が月45時間を超える職員の延べ人数 0人 ・1人あたり時間外労働時間 月平均30時間以下 ・1人あたりの年間休暇取得日数 前年度比増	(年度末および適宜記載)	※ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)